



小・中学校トイレの洋式化／A-LTを導入してどう変わったか

浅倉成樹議員(市議会公明党)

小・中学校のトイレの洋式化について

質問 ①30年度の洋式化の実績は。また、今後の修繕予定は。

②経費の財源内訳は。特に、都の補助金等の活用については。

教育長 ①年度末までに小学校9校、便器数31器、中学校3校、便器数15器実施する。第五小学校及び花小金井小学校の増築棟は24器全てが洋式となる。31年度は60器程度改修の予定である。

②29年度は修繕に対して3億79万5千円の補助のほか、大規模改造工事の際の整備に対して6億21万6千円の補助があった。その他の財源は一般財源である。

授業にA-LT、外国人英語指導助手を導入してどう変わったか

質問 ①これからの英語教育では、どのような学力を身につけることを目標にしているか。

②A-LTの導入の実績と評価は。あわせて今後の計画は。

教育長 ①主体的に外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけさせ英語で何ができるようになるのかを到達目標にすることと認識している。

②英語を実際のコミュニケーションで使えるようになったか、文化の多様性を学ぶ機会となった。31年度は小学校への配置時数の拡充を図る予定である。



国保税の軽減／要支援者への介護／B地域コミタワの今後など

木村まゆみ議員(日本共産党小平市議団)

高すぎる国民健康保険税の引き下げと滞納者への対応について

質問 ①18歳未満の子どもの均等割を廃止できないか。

②給与の全額差し押さえは中止すべきかどうか。

市長 ①今後も地方税法に沿った運用をしていく。

②預金債権は、相談があれば納付計画を立て、一部または全部の差し押さえを解除している。

小平市南西部の公共交通やまちづくりの政策的課題について

質問 ①コミュニティタクシーについて、採用条件の1日70人乗車は住民福祉の観点から十分だが今後の見通しは。

②鷹の台公園と三菱UFJ銀行跡地購入の協議の状況は。

市長 ①公共交通に対する基本的な考えに基づき実証実験運行の結果を見きわめ判断していく。

②前者は土地開発公社予算に22億5千万円計上し、後者は将来駅前広場が望まれており、引き続き協議をお願いしている。



自分らしく過ごせる学童へ／より快適に自転車乗りこなそう

山崎とも子議員(生活者ネットワーク)

子どもたちが自分らしく過ごせる学童保育へ

質問 ①学童クラブに在籍している発達の子どもの数は。

②学童クラブで発達の子どもの対応は。

③作業療法士の視点で学童クラブに通う児童の発達や成長を支援するのは有効だが、見解は。

市長 ①30年度2学期現在でおおむね50人と捉えている。

安心・安全でより快適に自転車を乗りこなそう

質問 ①電動アシスト自転車に対する交通安全対策や啓発活動を行っているか。

②市内公共施設にシェアサイクルポートを設置してはどうか。

市長 ①電動アシスト自転車の特徴を理解し、より安全に利用できるような交通安全意識の普及向上に努めていく。

②観光で訪れる人などの回遊性が高まると期待できるため、観光まちづくり協会と連携し公共施設へのシェアサイクルポートの設置を検討していく。



東京街道周辺のまちづくり／小学校の交通安全対策と防災教育

川里春治議員(政和会)

東京街道周辺のまちづくりについて

質問 ①東京街道周辺のまちづくりをどう考えているか。

②東京街道沿いでシャッターをおろしている店が多くなっているが、市はどう考えているか。

市長 ①いくつかの商店街が形成されており、夏祭りなど、一定の賑わいが創出されている。また、農家が多く、緑豊かな環境と商店街の賑わいが調和された町であると認識している。

②商店の長い定着のためには事業継承等が重要と考えており、市内店舗改修等補助事業等を実施している。今後も都の補助金

小学校の交通安全対策と防災教育について

質問 ①下校時の交通安全についてどう指導しているか。

②防災意識を高めるためどのような教育をしているか。

教育長 ①年間指導計画に基づき1学期の初めに教員が下校に付き添い道路の歩き方等指導している。また、警察署と連携した交通安全教室を実施し安全に登下校できるよう指導している。

②発災時の行動等を指導している。また、防災教育副読本防災ノートを学習し、避難訓練の意義等を指導するなどしている。



天神町の交差点の改善を／非常用蓄電池設置と室内灯LED化

虻川浩議員(市議会公明党)

危ないを安心・安全に、天神町の危険度の高い交差点の改善を

質問 ①天神通りと東たかの道の交差点の危険性の認識は。

②これまで実施した対策と効果、今後の対応について問う。

市長 ①当該交差点は商店街の中にあり、小・中学校の通学路に指定されていることから、地域の生活道路として、歩行者や自転車、車両の交通量が比較的多い路線であると認識している。

②交差点中央に点滅びょうろを設置するなどの対策を図っている。今後も交通状況等を注視し、交通安全対策に努めていく。

災害に備えた非常用蓄電池の設置と室内灯のLED化を急げ

質問 ①大規模停電、ブラックアウトに備えた非常用蓄電池の整備は極めて重要だが、見解は。

②高効率化推進のため、現状の灯具をそのまま生かしたLED交換方式を採用すべきと考えるかどうか。

市長 ①継続して稼働可能な非常用電源の確保は重要であると認識している。今後、都の補助制度活用について研究していく。

②灯具の廃棄費用がかからず、比較的安価に導入できるメリットは認識している。費用対効果等踏まえ総合的に判断していく。



少子化対策、特定不妊治療等に対して手厚い支援を

伊藤央議員(ムサシ)

少子化対策について

質問 ①市として少子化問題への対応に受けとめているか。

②特定不妊治療費助成事業に市独自で上乗せや条件緩和はできないか。

③不妊に関する相談・カウンセリングの窓口設置、また男性向け窓口の設置をしてはどうか。

④子どもを産み、育てることの喜びや楽しさ、命のバトンをつなぐことのすばらしさを伝える若者向けの事業、小・中学校での授業を行ってはどうか。

市長 ①社会保障費等の財政需要の増加や税収減少が見込まれ、

公共施設の維持、更新や人材不足などの影響が生じるものと想定される。市としては、子育てをしやすい環境整備の取り組みなどを中心に対応を図っている。

②東京都や先行して実施している自治体の動向等を研究する。

③市独自の相談窓口対応は難しいものと捉えている。引き続き、東京都の不妊、不育ホットラインを案内するなど、各関係機関と連携を図っていく。

教育長 ④小学校では、人の誕生や命の大切さなどを学ぶ授業を実施している学校がある。中学校では、助産師を招いて、心や体の発達や家族の大切さなどについて学習している。



シェアサイクルポートの例(千代田区)

市民のくらしのSOSをキャッチする連携の体制づくり推進を

質問 ①生活困窮者等に対応した支援策は。

②子どもの貧困について現状認識と課題は。

市長 ①こだいら生活相談支援センターを設置し支援している。また相談員が生活困窮のおそれがある人への訪問を行っている。

②子ども・若者の意識・実態に関する調査の結果等から、特に深刻な状況にあるとは捉えていないが、さまざまな要因が複合的に絡み合う場合が多く外からは見えづらい。現場の連携を深め引き続き把握に努めていく。

小川駅周辺のまちづくりや公共交通の諸課題について

質問 ①小川駅西口地区市街地再開発準備組合の協議の進捗は。

②駅前自転車駐車場の確保を、鉄道事業者等に要請する考えは。

③コミュニティタクシーの停留所を駅に近づけられないか。

④西部市民センターの今後について、市民意見の内容は。

市長 ①権利者の同意取得に向けた準備等に取り組んでいる。

②鉄道事業者と協議していく。

③現状では難しい。

④意見交換会等では、機能移転後も現施設を使用するのであれば残せないかとの意見もあった。